

# ガザミ類の種苗量産技術研究

島袋新功

本研究は、昭和57年度「栽培漁業技術開発事業報告書」で詳細を報告したので、その概要をまとめた。

## 1 目的及び内容

ガザミ類の種苗生産放流による積極的な資源の増大を図るため、その種苗量産技術を確立する目的で、試験を行なった結果、タイワンガザミの種苗 146 千尾 (7.3 千尾/ $m^2$ ) を生産した。引き続き、13 日間の中間育成を行なった結果、稚ガニは 3~5 令期に生長し、その間の生残率は 9.0 % であった。また、稚ガニは 1 令期から 50 % 以上の個体が完全な潜砂能力を有することが示された。

## 2 成果の概要

(1) 屋外 20 $m^2$  円形コンクリート水槽に、タイワンガザミのふ化幼生 564 千尾 (28.2 尾/ $\ell$ ) を放養し、ワムシ、アルテミア幼生、貝肉等を投餌し、止水通気飼育を行なった結果、ふ化後 23 日目に稚ガニにほとんど変態した。その間の飼育水温は 20~28 $^{\circ}C$  で、稚ガニ生産量は 146 千尾 (7.3 千尾/ $m^2$ )、生残率は 25.9 % であった。

(2) 幼生飼育に引き続き、カニ変態 13 日後まで、貝肉とムロアジを投餌して中間育成を行なった結果、稚ガニは 3~5 令期 (C<sub>3~5</sub>)、甲幅 8~15mm に生長、生残数 13.2 千尾で、生残率 9.0 %、ふ化幼生からの通算生残率は 2.3 % であった。

(3) 稚ガニの潜砂行動を観察した結果、1 令期から 50 % 以上の個体が完全な潜砂能力を有し、令期が進むにつれて潜砂個体の割合が増え、5 令期は 90 % 以上が潜砂した。

## 3 残された問題点

タイワンガザミの放流サイズ、場所、効果等の放流技術を検討する。